

2025 年 5 月 2 日 全 8 頁

消費データブック（2025/5/2 号）

個社データ・業界統計・JCB 消費 NOW から消費動向を先取り

経済調査部 エコノミスト 菊池 慈陽

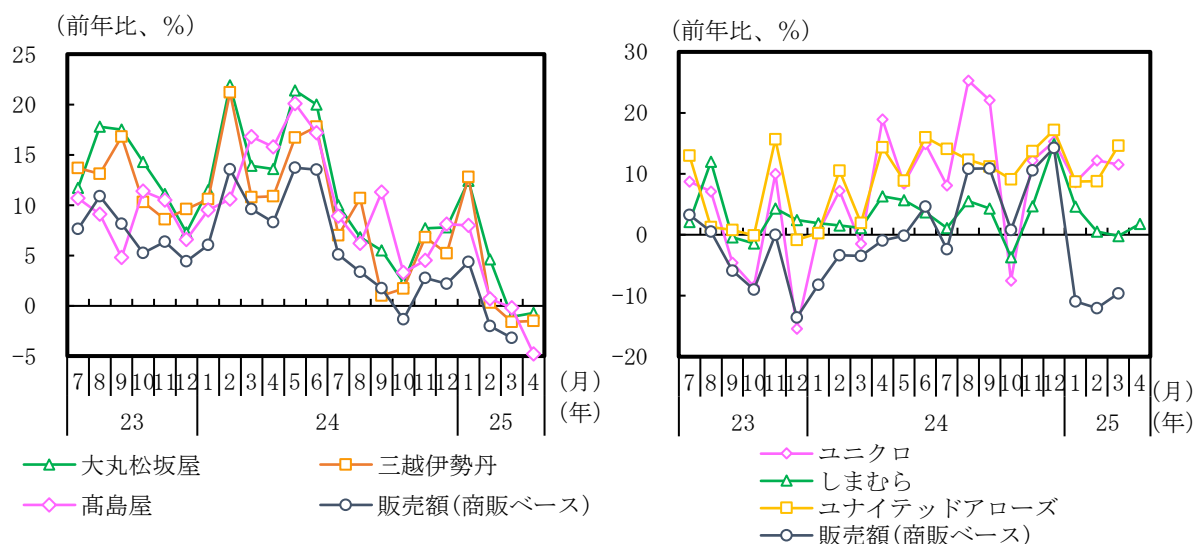
[要約]

- 2025 年 3 月の消費は 2 月から横ばい圏で推移したとみられる。財消費は小幅に減少した。百貨店やアパレルなどの販売額が減少した。他方、家電などその他の小売は概ね横ばいだった。サービス消費は概ね横ばいで推移した。新幹線・旅客機輸送量や宿泊者数、外食関連はいずれも前年比でプラスを維持している。
- 4 月の消費は 3 月から小幅に減少したとみている。財消費は弱さが見られた。百貨店大手 3 社の販売額は前年割れが続いている。JCB の家電消費額（大和総研による季節調整値）は前月から減少した。サービス消費は概ね横ばいで推移した。東海道・山陽・九州新幹線の輸送量は前年比の伸び率が前月から小幅に拡大した。他方、JCB 宿泊消費額（同）と JCB 外食消費額（同）は減少した。

<小売関連>

- ◆【百貨店】 25年3月の百貨店商品販売額（商販ベース）は前年比▲3.2%と、2カ月連続で減少した。減少幅も拡大した。業界統計から内訳を見ると、身のまわり品（同▲1.5%）や衣料品（同▲1.0%）など、幅広い品目で売上高が減少した。25年4月の百貨店大手3社の既存店売上高は同▲4.8～▲0.7%と、3社ともに2カ月連続で減少した。24年後半から売上高の前年比は縮小傾向にあり、足元ではマイナスに転じている。ただし、主因はインバウンド顧客への売上の減少であり、国内顧客への売上は横ばい圏で推移しているとみられる。
- ◆【アパレル】 25年3月のアパレル販売額（商販ベース）は前年比▲9.6%と、3カ月連続で大幅に減少した。ただし、マイナス幅は小幅に縮小した。25年4月のアパレル大手しまむらの既存店売上高は、同+1.8%と僅かながら2カ月ぶりに増加した。

図表3：百貨店・アパレルの販売額



(注1) 百貨店：既存店ベース。

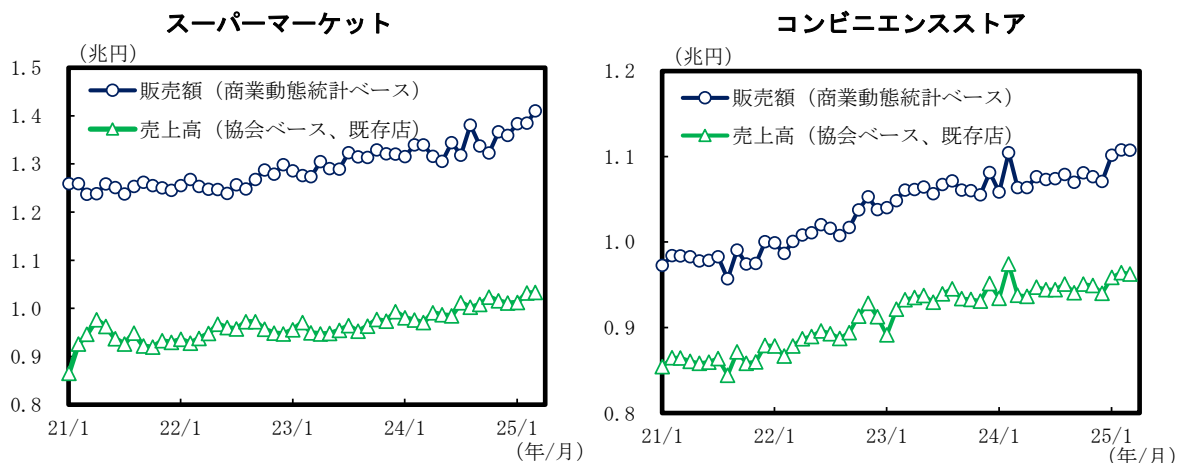
(注2) アパレル：既存店ベース(含むネット通販)。しまむらの各月の数値は前月21日から当月20日の集計値。

(注3) アパレル販売額(商販ベース)は、商業動態統計の「織物・衣服・身の回り品小売業」を参照。

(出所) 経済産業省統計、各社資料より大和総研作成

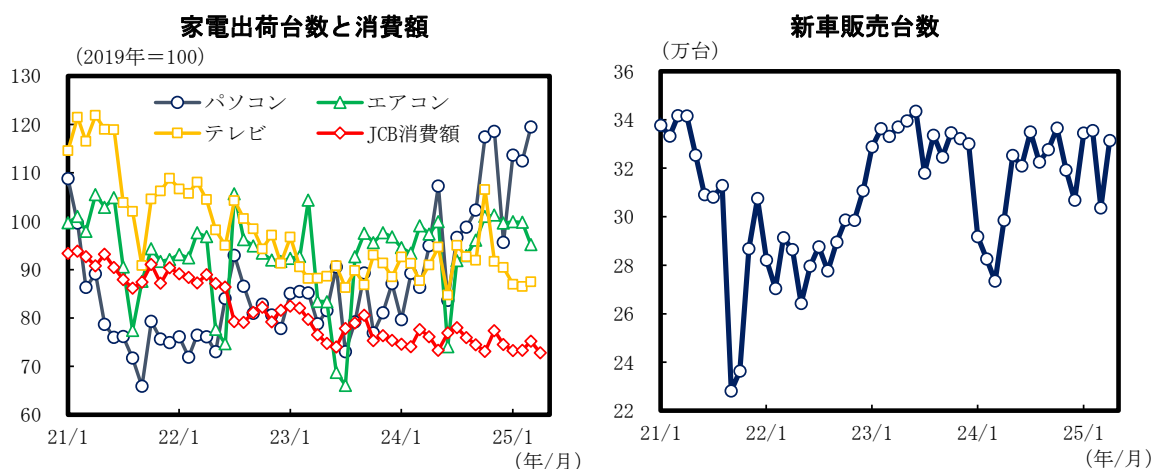
- ◆【スーパーマーケット】 25 年 3 月の販売額は前月比+1.8%（大和総研による季節調整値）。飲食料品（同+2.1%）の販売額が増加し、全体を押し上げた。
- ◆【コンビニエンスストア】 25 年 3 月の販売額は前月比▲0.0%（大和総研による季節調整値）。非食品（同+1.3%）の販売額が増加した一方、日配食品（同▲0.2%）や加工食品（同▲0.1%）の販売額が減少した。

図表 4：スーパーマーケット・コンビニエンスストアの売上高



- ◆【家電】 25 年 3 月の出荷台数はパソコンが前月比+6.2%、エアコンが同▲4.6%、テレビが同+1.1%（いずれも大和総研による季節調整値）。均して見れば、24 年以降エアコンとテレビは横ばい圏にあるが、パソコンは増加基調が続いている。25 年 4 月の JCB 消費額（機械器具小売業）は同▲3.2%と、3 カ月連続ぶりに減少。
- ◆【自動車】 25 年 3 月の新車販売台数（大和総研による季節調整値）は前月比▲9.5%と大幅に減少した。初旬に部品会社の工場で事故が発生し、複数のメーカーで一部生産ラインが稼働停止した影響が表れたとみている。25 年 4 月は同+9.1%と大幅に増加した。前月からの反動増が表れた。

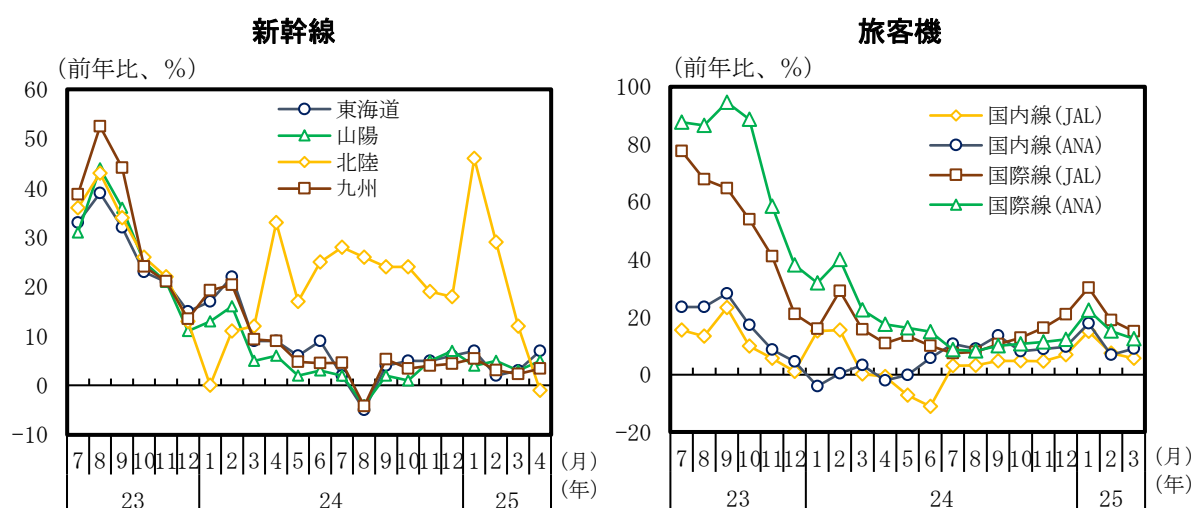
図表 5：家電出荷台数と新車販売台数



<サービス関連>

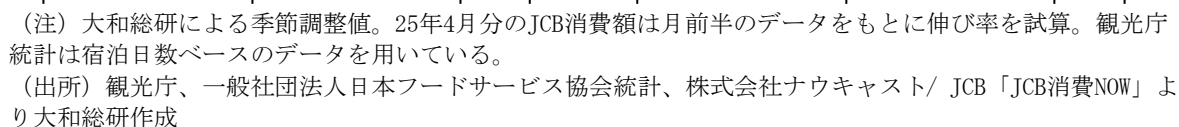
- ◆【新幹線】25年3月の輸送量は、東海道・山陽・九州新幹線は前年比+2～3%程度と、伸び率が前月から概ね横ばいで推移した。他方、北陸新幹線は同+12%と増加したが、伸び率は前月から縮小した。25年4月は、東海道・山陽・九州新幹線は同+3～7%程度と、伸び率が前月から小幅に拡大した。均して見れば、伸び率は24年後半から概ね横ばいで推移しているとみられる。北陸新幹線は同▲1%と42カ月ぶりにマイナスに転じた。ただし、24年3月に金沢・敦賀間が延伸開業した影響で、前年同月の輸送量が多かった裏の影響が表れたことを考慮すると、堅調に推移したといえよう。
- ◆【旅客機】25年3月の国内線輸送量（含むグループ会社）は、ANAが前年比+9.0%、JALが同+5.6%だった。24年7月以降は前年比でプラスを維持し、堅調に推移している。国際線輸送量（同）は、ANAが同+12.4%、JALが同+15.0%だった。足元では、コロナ禍前の19年同月の水準の8～9割まで回復している。21年4月以降は前年比でプラスを維持しており、増加傾向が続いている。

図表6：新幹線・旅客機の利用状況



(注) 25年4月の東海道は29日、山陽・北陸は14日、九州は23日まで。JAL・ANAのデータはグループ会社を含む。
(出所) JR東海、JR西日本、JR九州、JAL、ANA資料より大和総研作成

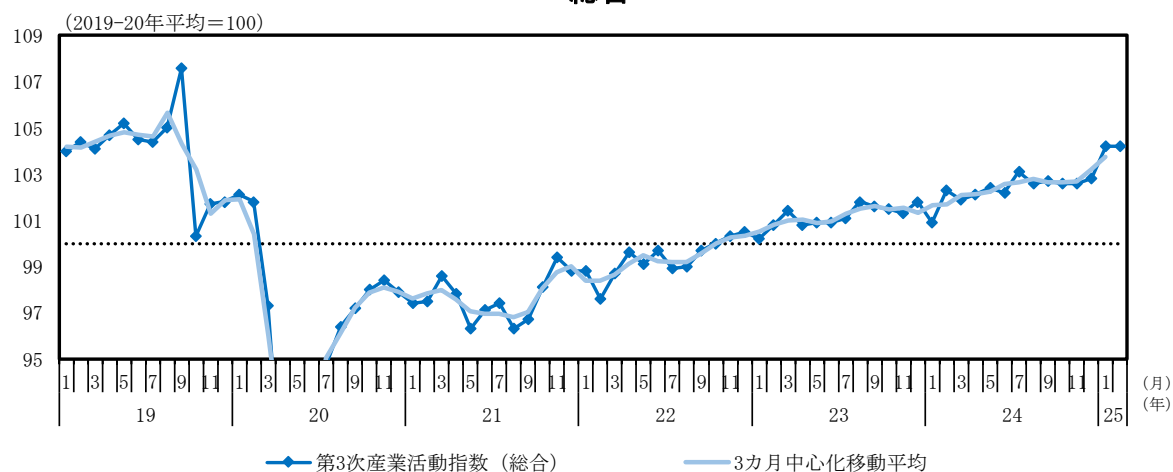
- 図表7：国内延べ宿泊者数と宿泊消費額（左）、外食消費額（右）



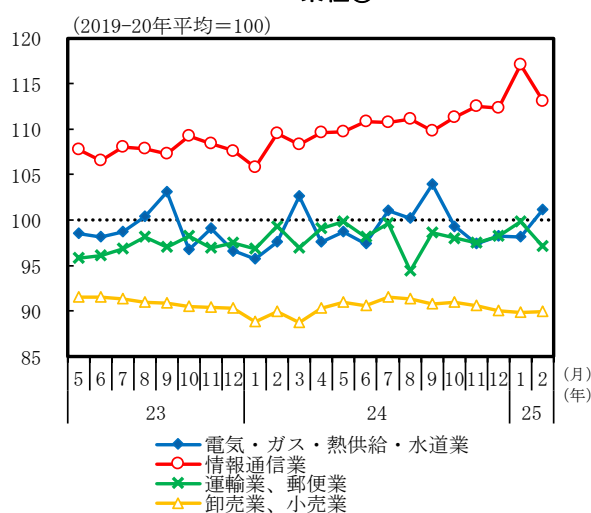
<参考：第3次産業活動指数>

図表 8-1：第3次産業活動指数

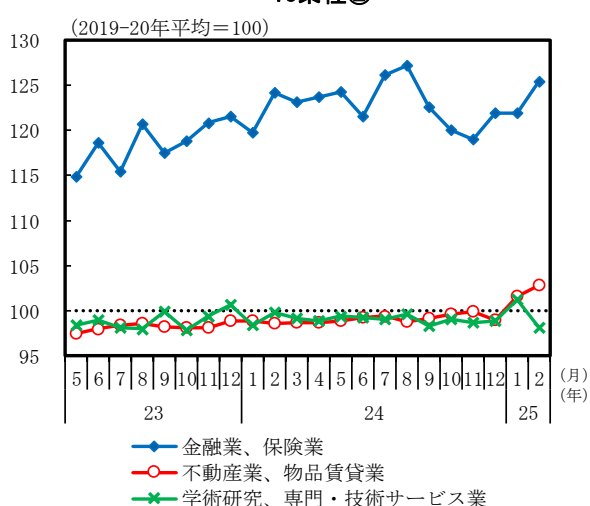
総合



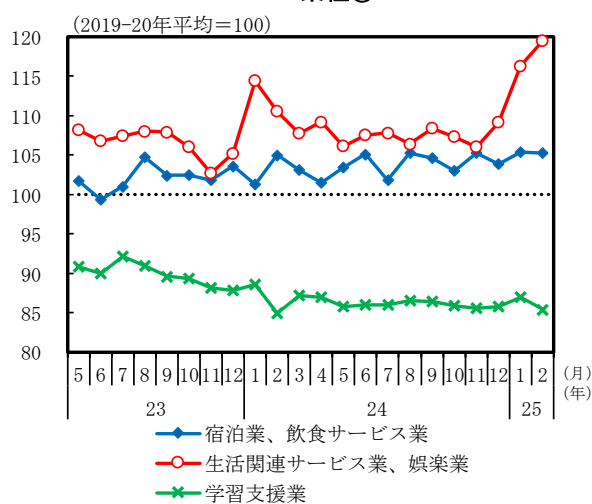
13業種①



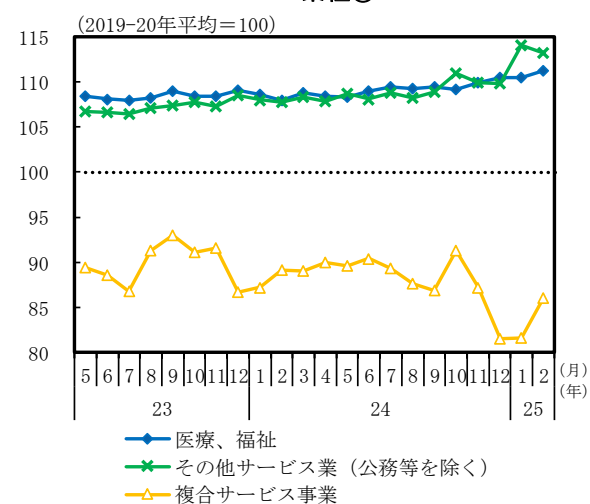
13業種②



13業種③



13業種④

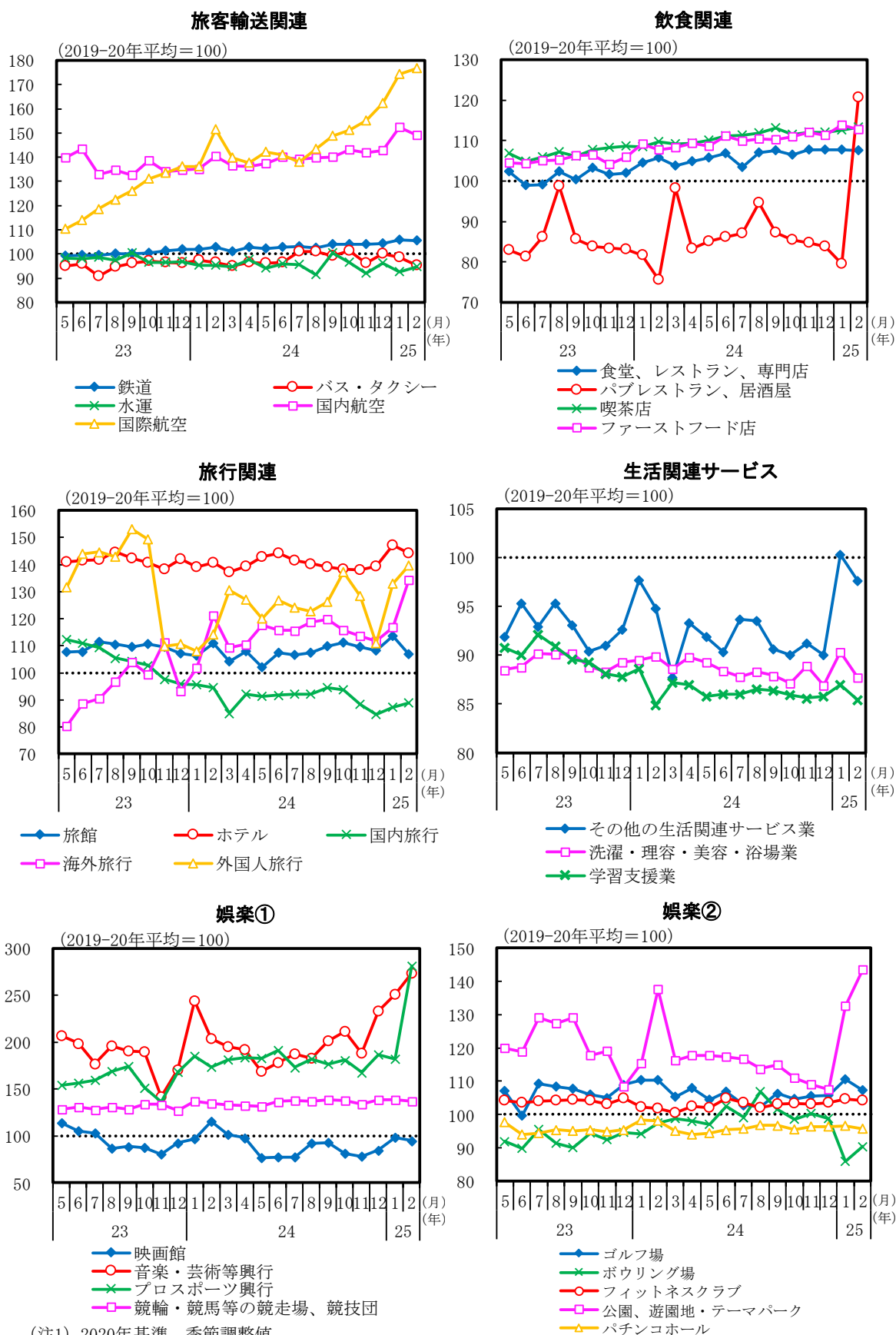


(注1) 2020年基準、季節調整値。

(注2) 13業種は、第3次産業活動指数の対象となっている日本標準産業分類の大分類13項目。

(出所) 経済産業省より大和総研作成

図表 8-2：運輸業・生活関連サービス業などにおける活動指数の推移



(注1) 2020年基準、季節調整値。

(注2) 生活関連サービスの「その他生活関連サービス業」は、冠婚葬祭業や写真業など。

(出所) 経済産業省より大和総研作成